

令和4年度 調布市立北ノ台小学校 学校評価報告書（学校長 野口 直也）

学校の教育目標	
○思いやりのある子ども ○よく考える子ども ○明るく元気な子ども	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
目指す学校像 【子どもたち一人一人を大切に作る学校】 (1) 児童にとって 「よろこびのある毎日」 ・友達と関わるよろこび ・学んで分かるよろこび ・自分の成長が実感できるよろこび ・自分の存在が認められるよろこび (2) 保護者, 地域にとって 「安心して任せられるみんなの学校」 ・開かれた学校 ・安心できる学校 ・迅速で誠実な対応 ・協働, 連携できるみんなの学校 ・学校を核とした地域づくり (3) 教職員にとって 「自己実現できる職場」 ・風通しのよい明るい職場 ・やりたいことができる職場 ・成長できる職場 ・コミュニケーションを大切に	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>						
	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)			
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①主体的に考え, 議論する道徳授業の実践をするとともに, いじめについて考える授業を全学級で各学期1回, 年間で3回行う。	B	①週ごとの指導計画を作成, 提出し, 計画的に指導を行うとともに, 毎時間の授業においてねらい明示し, 振り返りを行う。	B	①「みんなのきまり」を基に全教職員による一貫した, ルールの遵守, 挨拶, 正しい言葉遣いの指導を行う。	B
	②不登校児童の解消や新たな不登校を生まないために心の居場所づくりに努める。(児童の声にしっかり耳を傾ける。迅速で誠実な保護者対応をする。)	B	②「対話」を重視した話し合い活動とノート指導に重点を置くとともに, 教材研究ノートを作成し, 授業の工夫改善を行う。	B	②感染症予防ガイドラインに基づく指導を徹底するとともに, 「心も体もパワーアッププロジェクト2022」を推進する。	B
	③靴箱の靴を揃えることや清掃の指導を充実させるとともに, ユニバーサルデザインを取り入れることで居心地のよい環境をつくる。	B	③年間10回の校内研究でICTの活用力を高め, 指導力を向上させる。	A	③ねらいを明確にし, 運動量を確保した体育授業を行うとともに, 全員外遊びを実施することで運動の日常化を図る。	C
(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	
①児童アンケート「いじめをしないで仲良く」95点以上→92点, 保護者アンケート「子供たちが安心して生活」85点以上→88点, 職員評価「道徳授業」70点以上→64点「いじめ授業」75点以上→76点	B	①児童アンケート「授業の内容が分かる」85点以上→85点, 保護者アンケート「楽しく分かりやすい授業」85点以上→89点, 職員評価「計画的な指導」85点以上, →88点「ねらい・振り返り」75点以上→79点	A	①児童アンケート「すすんで挨拶」85点以上→87点, 保護者アンケート「すすんで挨拶, 学校のきまり」80点以上→83点, 職員評価「みんなのきまり, 挨拶, 言葉遣い」80点以上→77点	B	
②児童アンケート「学校が楽しい」95点以上→85点, 「先生に相談できる」80点以上→75点, 保護者アンケート「開かれた学校を推進」85点以上→89点, 職員評価「居場所づくりに努めた」80点以上→73点	B	②児童アンケート「すすんで学習している」80点以上→79点, 「あきらめないで頑張る」85点以上→86点, 職員評価「対話を取り入れた授業」80点以上→73点, 「授業の工夫」75点以上→74点	B	②保護者アンケート「体力の向上や健康を保つための指導」90点以上→88点, 職員評価「オリ・パラ教育の実践」80点以上→55点, 体力テストTスコア50以上→50.62	C	
③児童アンケート「きまりを守って生活」85点以上→86点, 職員評価「靴箱・清掃」「ユニバーサルデザイン」80点以上→74点	B	③児童アンケート「タブレット等を使うことで授業がわかりやすくなった」80点以上→86点, 教員評価「ICT機器を効果的に活用させることができた」80点以上→81点	A	③児童アンケート「すすんで運動」90点以上→85点, 職員評価「ねらいを明確にした体育授業」「全員外遊びの実施」80点以上→80点, 73点	B	
学校関係者評価	・子供たちが落ち着いて授業に臨んでいる。挨拶もしっかりとできている。担任の児童理解がしっかりとできているから, 学校と保護者の信頼関係も築けている。		・子供たちが楽しそうに授業を受けている。教員の指導力が素晴らしく, 授業が分かりやすい。算数の少人数での授業が, とても効果的である。		・コロナ対応も少しずつ落ち着き, ロードレース大会などの地域行事も復活しつつある。外遊びなども含めて, 体力向上につながるという。	

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>					
	4 保護者・地域との連携	5 ICT機器を活用した授業改善			
自己評価	(1) 取組目標(具体的方策)	評価	(1) 取組目標(具体的方策)	評価	
	①HPを年間100回以上更新する。学校便り, 学年便りを月1回発行する。	A	①ICTの活用場面を増やすことで, 日常的な授業力の向上を目指す。	A	
	②地域学校協働本部を生かして地域の教育力を活用する。	A	②「個別最適な学び」「協働的な学び」を意識して児童タブレットを活用する。	B	
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	
①教員自己評価「HP更新, 学校学年便り発行」70点以上→66点	B	①教員自己評価「ICTの活用による授業力の向上」80点以上→81点	A		
②保護者アンケート「地域と協力した教育活動」90点以上→89点	B	②教員自己評価「一人一台タブレットの積極的な活用」85点以上→77点	B		
学校関係者評価	・地域と学校がしっかりとつながっている素晴らしい学校。様々なことが変わりつつある今, PTAも協力しながら更に足並みをそろえていきたい。 ・地域も協力して, 花壇や畑, 樹木など, 環境整備ができています。 ・学校評価保護者アンケートの回収率を高めたい。		・タブレットやプロジェクターなど, どの学級でもICTを効果的に活用した授業が行われている。 ・ICTも必要だが, 人と人の関わりが一番大切。		

人材育成・組織運営	
自己評価	○授業力の向上 ・複数の講師を招いての研修会, 行内研究に運動させたOJT等により, 教員の授業力を高めることができた。 ○校務分掌等の活性化 ・校務分掌組織や会議の形式を見直すことによって, 組織を活性化することができた。 ○服務規律の徹底 ・職員の自己評価が90点と高いことから, 服務研修や職員会議等での確認や意識付けが効果的である。 ○ワーク・ライフバランスの推進 ・職員の自己評価は昨年度よりアップしているが, まだまだ在校時間を減らす必要がある。
学校関係者評価	・学校全体が落ち着いているのは, 教員の授業力向上によるところが大きい。日頃から授業研究を熱心に行っていることが, 授業を見てよく分かる。 ・真面目に努力する教職員が多く, 服務規律は十分に守られている。 ・授業研究に熱心なので, 教員の在校時間が長くなってはいないか。教職員の健康のためにも, 地域の力を有効活用し, 在校時間を減らしてほしい。

中期的な経営目標の達成状況	
1	・教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実, 特別支援教育の充実においては, 今年度研修を増やしたことで教員の意識が向上した。
2	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善については, 研修会やOJTを通して一定の成果が見られたが, まだ十分とは言えない。
3	・生活指導については, 自己指導能力の育成に重点を置いたことで意識改善が見られた。児童の体力向上に関しては, 特別活動と関連させて充実を図る。
4	・地域学校協働本部を活用した教育活動の充実, ほぼ達成できている。コミュニティ・スクールへの移行を目標にさらに活性化していく。
5	・一人一台タブレット端末の効果的な活用については, 校内研究に取り上げたことで推進することができた。今後も継続して進めていく。
人・組	・授業力の向上は, 常に意識し続けなければならない。 ・校務分掌の見直しにより, 組織的な動きができるようになってきた。

次年度の重点課題	
○特別支援教育の充実 ・生活指導における自己指導能力の育成(「守らせる生活指導」から, 自己選択・自己決定・自己実現を大切にする「考える生活指導」へ) ・校内研究, OJTの充実による授業力の向上 ・特別活動等によるコミュニケーション力や体力の向上	

